医療機関からの診察予約について

診療依頼申込書に必要事項をご記入の上、FAXで送信してください。
※一部診療科においては事前に紹介状のFAXを頂く場合もございますのでご了承ください。

医療機関からの検査予約について

北野病院では、地域の医療機関から各種検査の直接予約をお受けしております。
※患者さんからの直接予約はお受けしておりません。
検査結果は、ご依頼いただいた医療機関宛に郵送いたします。
ご依頼元医療機関にて、患者さんへ結果のご説明・ご報告をお願い致します。

各種お申し込みの詳細につきましては、
当院ホームページまたはQRコードを読み取りいただきご参照ください。
※診療依頼申込書はホームページよりダウンロードいただきますようお願いいたします。

当院ホームページ https://www.kitano-hp.or.jp/section/local/shinryo_y

お問い合わせ先

北野病院 地域医療サービスセンター TEL 06-6131-2955(直通) ／ FAX 06-6312-8620(直通)

【受付時間】月曜日～金曜日 8:45～19:00
土曜日※ 8:45～14:45 ※なお、第2・第4土曜日・日曜日・祝日及び年末年始は予約受付を行っておりません。

公益財団法人 田附興風会 医学研究所
北野病院

〒530-8480
大阪市北区扇町2-4-20
https://www.kitano-hp.or.jp/

JRをご利用の方
環状線天満駅から扇町公園内を通って徒歩約7～8分

地下鉄をご利用の方
堺筋線扇町駅・谷町線中崎町駅から徒歩約5分

自動車をご利用の方
- 阪神高速守口線の扇町で降りて1つ目の信号を左折、次の信号を右折後直進300m。
- 新御堂筋線は茶屋町で降り、堂山町交差点を左へ、中崎交差点を右へ直進し300m。

※自動車でご来院の方へ
病院に駐車場がありますので、ご利用くださいますようお願いいたします。

北野病院の地域連携広報誌「きたの」

KITANO

創刊号
VOL.001
2021.9

TOPICKS

がん特集

放射線治療センター
消化管における内視鏡外科手術の最先端
がんゲノム医療への期待と展望

Column
放射線治療センター

放射線治療センターにおけるがん治療について

北野病院放射線治療センターでは、体外照射用の高精度放射線治療用リニアックと、子宮がんなどの根治的治療に用いる小線源治療装置を設置しています。
当センターで実施可能な治療として体外照射では、強度変調放射線治療（腫瘍の形に合わせて照射。限局性固形癌が対象）や体幹部定位放射線治療（肺がん、肝臓がんなどの局所に限局した小腫瘍に対してのピンポイント照射）を実施しています。これらの治療では治療直前に治療ベッド上でX線画像やCT画像を取得して位置補正を行い正確に照射する画像誘導法を併用しています。
早期の肺がんではピンポイント照射により数回の通院で治療が可能で、治療効果も手術に劣らない成績が報告され、低肺機能や合併症により手術が行えない場合でも根治治療が可能です。今後は肝臓がんや前立腺がんなどに対して実施する予定です。
小線源治療では、子宮腔内照射用のアプリケーターを留置した状態でCT、MRIを撮影し治療計画を実施する画像誘導下小線源治療を行っています。さらに乳がん治療への応用も準備中です。
各臓器別診療科、腫瘍内科、緩和ケア科などと協力してより良い治療の提供を実践してまいります。
宜しくお願い致します。

PROFILE

放射線治療センター（腫瘍放射線科）
主任部長 高木 雄久
本医学放射線学会 放射線治療専門医／日本放射線腫瘍学会 放射線治療認定医・専門医／日本がん治療認定医機構 がん治療認定医／京都大学臨床講師

Column
消化器外科

消化管（胃癌 大腸癌）における内視鏡外科手術の最先端 ～ロボット支援下手術～

消化器がんの分野において、1991年、世界に先駆けて日本で腹腔鏡下胃切除が行われて以降、消化器がんに対する腹腔鏡下手術は、低侵襲手術として広まって参りました。
一方、腹腔鏡下手術には、鉗子の可動域制限や2D画像といった弱点がありました。その弱点を克服するべくda Vinci surgical robotシステム（robot支援下手術）が導入され、2012年前立腺がんに対する手術として、国内ではじめて保険収載されました。
robot支援下手術では、腹腔鏡よりも鮮明な3D画像で拡大された画面を見ながら操作でき、また人間の手の動きを模倣した多関節を持った鉗子により手ぶれを防止する機能も備えているため、これまでより細かい操作が可能となり、根治性と安全性がより高まることが期待されています。
消化器がんにおいては、胃がんで2014-2016 先進医療Bとして、robot支援下手術の安全性有用性に関する試験が行われ、出血量が少なく（平均20ml）、合併症が少ない（clavian - dindo3以上2.45%）ことが報告されました（Gastric Cancer. 2019. 22:377 – 385）。この結果を元に2018年4月にロボット支援下手術は一挙に12術式が施設条件付で保険診療として認可されるに至りました。当院では、消化器外科領域において、ロボット支援下胃切除・ロボット支援下直腸切除を行うための厚生労働省・日本内視鏡外科学会が定めた施設基準を満たし、胃がんに関しては2019年7月より、直腸がんに関しては2019年5月より導入し、良好な結果をおさめています。

PROFILE

消化器センター 消化器外科
副部長 田中 英治

京都大学医学博士／日本外科学会専門医・認定医・指導医／日本消化器外科学会専門医・指導医／日本内視鏡外科学会技術認定医／日本食道学会 食道科認定医・食道外科専門医・評議員／緩和ケア研修修了／臨床研修指導医講習修了

Column
消化器内科

がんゲノム医療への期待と展望

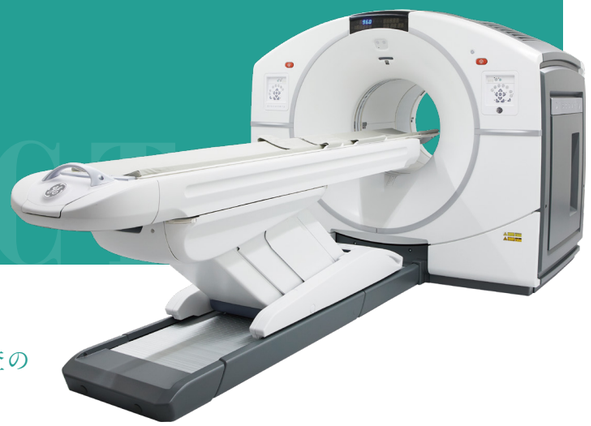
ヒトのがんは同じ臓器のがんであっても、その遺伝子のプロファイル（ゲノム情報）は、患者さんごとに多様です。この考えに基づき、近年、個々の患者さんの遺伝子プロファイルに基づいたがんの診断や治療を実践しようとする考え方が広まりつつあり、“がんゲノム医療”と言われます。
従来、抗がん剤の多くは殺細胞性抗がん剤で、広く細胞の増殖を阻害する薬剤ですが、近年の“分子標的治療薬”とされる薬剤は、がん細胞に固有のシグナル伝達異常や遺伝子産物を標的とします。現在、がんの薬物治療は、がんの発生した臓器によって選択された殺細胞性抗がん剤による治療が一般的ですが、がんゲノム医療では、がんの発生した臓器ではなく、個々の患者さんの遺伝子プロファイルに基づいて選択された分子標的治療薬による治療を行います。
がんゲノム医療には、一度に多くの遺伝子を解析する必要がありますが、“遺伝子パネル検査”では生検標本などから100種類以上の遺伝子を一度に解析することが可能で、国内でも2019年6月に“FoundationOne CDx がんゲノムプロファイル”と“OncoGuide NCC オンコパネルシステム”が保険承認となりました。現在はまだ、保険適応の条件などに制度的な課題を残しておりますが、近い将来、我が国においてもゲノム情報に基づくがんの個別化医療が確立されるものと期待されます。
当院といたしましても、京都大学病院と連携し、がんゲノム医療への時代の潮流に乗り遅れないよう努めて参りたいと考えております。今後とも、先生方のご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

PROFILE

消化器センター消化器内科
副部長 髙 忠之

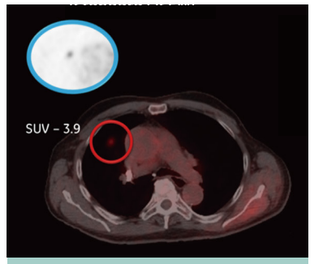
京都大学医学博士／日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医・指導医／日本消化器病学会専門医・指導医／日本消化器内視鏡学会専門医／日本肝臓学会専門医／日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医／日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

PET-CT検査のご依頼について

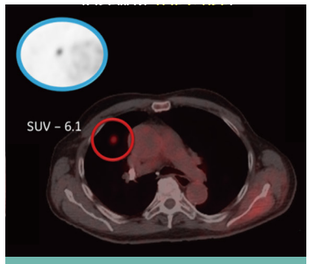


当院では本年7月より、
連携する医療機関からのPET-CT検査のご依頼をお受けしております。

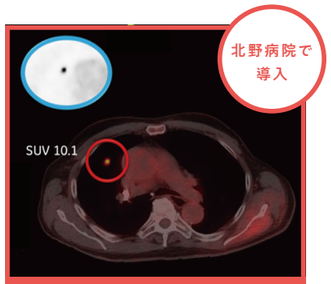
この度新規導入した第3世代PET-CT装置は、従来の画像再構成法（OSEM法やTOF法）では困難であった「画質」と「定量精度」双方の向上を実現しており、それにより微小病変の描出能および隣接病変との識別能が飛躍的に向上しています。診断能向上、また治療効果判定に必要なSUV（定量値の指標）の信頼性・安全性を改善し、テーラーメイド医療への大きな前進となります。ぜひ画像診断の一助としてご活用ください。



第1世代



第2世代



北野病院で導入

第3世代

GREETING

平素より、患者さんのご紹介など先生方には格別のご高配を賜り、心より御礼申し上げます。
2021年4月1日付けで地域医療サービスセンター長を拝命しました寺嶋宏明（消化器外科・肝胆膵外科）です。
当センターでは、地域医療機関との「顔の見える病診・病病連携」を大切にすることをモットーとして、外来紹介受診・転院先のご紹介・退院後のかかりつけ医への逆紹介などが円滑に行えるように取り組んでいます。
今回、地域の先生方に向けた情報発信広報誌「きたの」を年2回のペースで発刊することになりました。第1号は“がん特集”として、がん診療に関する3つのトピックの最新の動向と情報をお伝えしたいと存じます。この広報誌が先生方の日常診療に少しでもお役に立つことが出来れば幸いです。
では、今後ともより一層のご支援とご協力をお願いいたします。

北野病院 副院長／消化器外科 主任部長／消化器センター長／がん診療センター長 ／地域医療サービスセンター長　寺嶋 宏明

地域連携パスを導入して

今回は、実際にがん医療地域連携パスをしてくださっている吉野 琢哉先生にお話を伺いました。
吉野先生は、主に消化器をご専門とし大阪市福島区で
医療法人嘉祥会 よしの内科クリニックをご開業されています。

がん医療地域連携パスはクリニック、病院、患者さんにとって大変有益なシステムだと思います。
クリニックにとっては、がんが見つかった患者さんを病院へ紹介した後の状態をシームレスに情報共有することができます。常に患者さんの状態を把握し、フォローができるということは、クリニック、患者さん双方にとって安心して治療を継続することができます。
そして何よりがん患者さんにとって一番恐れていることは再発です。がん医療地域連携パスを活用すれば、病院で術後半年に一度程度の経過観察を行い、その間クリニックで腫瘍マーカー等のチェックを行うことができ、再発などの異変を早期発見することに繋がります。実際私が診てきた患者さんでそういった事案があり、病変が進行する前に治療を開始するこができました。
また、がん医療地域連携パスは決まった形式があり、通常の診療情報提供書でのやり取りより随分手軽に必要な情報を得ることができます。一から診療情報提供書を作成することと比べるとはるかに医師の事務作業が軽減され、とても使いやすいツールと言えます。
1人のがん患者さんに対し、それぞれの施設が役割を果たしながら共に検査・治療を行っていくがん医療地域連携パスを今後もどんどん活用していきたいです。

PROFILE

医療法人嘉祥会
よしの内科クリニック
吉野 琢哉院長

- 住所　大阪市福島区鷺洲1丁目7-29 パレット1階
- 所属学会　日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化器免疫学会 日本炎症性腸疾患学会 American Gastroenterological Association, European Crohn's and Colitis Organisation, Asian Organization for Crohn's & Colitis
- 資格　京都大学医学博士／日本内科学会総合内科専門医・指導医／日本消化器病学会専門医・近畿支部評議員／日本消化器内視鏡病学会専門医

編集後記　EDITOR'S NOTE

暑さも遠のき、紅葉日々に増す10月の季節がやってきましたね。新型コロナウイルス感染症が確認され病院玄関でのトリアージを始め1年半が過ぎようとしています。「大変ね。ほんとにありがとう。こうやってちゃんとしてくれるから安心して外来に来られるのよ。身体気をつけてね。」こうした患者さんの温かい言葉にいつも心救われ、もう一踏ん張り頑張ろうと思えます。これからも安心して来院していただける環境を提供していきたいと思います。

地域医療サービスセンター 副センター長　亀山 花子